労働基本権は守れ

斡旋を迎え傘下組合員の座談会

三池闘争は全国の仂らく仲間たちに支えられて、安保闘争と固く結びつき、文字通り全国的な闘いに発展しました。中央では労仂者の固い連帯と団結の前に、政府はついにあつせんに乗り出さざるを得なくなり、いま中労委のあつせんがつづけられていますが、この機会に大地評では七月二十八日午後六時から大地評二階で三鉱労組組合員主婦を囲んで座談会をひらきました

生産阻害者の汚名

司会　三池闘争はいま斡旋段階にありますが、私たちは三池闘争は安保闘争と結合した闘いであり、安保体制下のクビ切り合理化と組合弾圧に反対し、平和と民主主義をたたかいとり、労働者・国民の生活と権利を守る闘いだといつてきました。事実、日本の歴史に例のないほどの大闘争に発展しています。資本家は闘争のなかで悪質な分裂工作をはじめ、暴力団、警官、再建本部などという御用団体を総動員して攻撃をかけてきました。闘いは斡旋段階に入つていますが、闘いはもちろんまだ済んでいませんし、闘いの成果、欠陥を論じる時期ではありませんがいままでの闘いをふりかえつてさらに、この結集された力を高めて有利な斡旋案を出させるために努力しなければならないと思います。

そういう意味で本日は三鉱労組の組合員、主婦のみなさんと大地評傘下の活動者に集つてもらつて座談会をひらいたわけです。まず、最初にも申上げましたように、私たちの予想しなかつたほどの長期なそして大規模な闘争になりましたが、どうしてここまで発展してきたのか、三鉱の方から話していただきましょうか。

労働者の運命を賭けた闘いだ

平畑　何といつても安保体制下の問題として、組合活動家に生産阻害者という汚名を着せて首切るということ、これが一番大きな問題だと思います。

これは労働組合を認めない、日本の民主主義を破壊するものだと考えています。

そういう意味でこんどの闘いはどうしても闘いぬいてゆかなければならないと思つています。

とくに、日本の労働運動の前途を十分考えてかからないと問題があり、敵は攻撃のホコ先きを総評に、そして総評の中でも強固な組織力をもつ炭労、そして三池に向けてきたので、それはこんど行われる炭鉱労働者十一万人首切りをはじめ全産業労働者にたいする大がかりなクビ切り合理化につながるものです。

これは実におそろしいものです大牟田だけを例にとつても、購買力は減り、年間二百万円の売上げをしている店が二百軒倒れることになり、また、失対事業費、生活保護費など社会的にも大きな問題となります。十一万人首切りとなれば大変なことです。

われわれは炭鉱労働者一人ひとりの個人の首切りということだけではなく、全日本の労働者の運命をかけたものとして闘つているのです。

石丸　私たちの闘いは、労働者の基本権を守る闘いであつて、決して賃金や期末手当を要求して闘つているのではありません。労働者の権利を守る闘いであることが理解されたから、大きな闘争に発展したのだと思います

共闘への理解について

司会　三池闘争に対する組織分裂は熾烈なものでした。三鉱ほど大きくはないにしても各組合にも同じ働きかけがあつただろうと思います。それにもかかわらず、私たちは地元の単産として同じ労働者として今日まで共闘を組んで闘つてきたわけですが同じ地元の労働者として、この闘いをどのように理解していますか。例えば、動員にしても資金カンパの問題にしても、いろいろ問題はあつたと思いますがどのように闘つてきましたか。

風斗　闘いの基本は確かにいま三鉱の方がいわれたように安保体制づくりをすすめるために合理化をしなければならない。それを強行するためには、労働組合を何とか弾圧しなければならないということでやつてきたと思います。

権力者、資本家の狙いは、卒直にいつて〝今の日本の労働組合は戦労ほど強くはない、ここで戦労をやつつけたら、あとは赤児の手をひねるようにたやすいだから戦労をいまのうちにやつつけろ〟ということになつたと思います。

私たちの化学をみても、ものすごく合理化がおこなわれています。東圧にしてもガス源を石炭から石油に切替えると発表したし、大牟田の例をみても昨年余剰人員が四百名あると発表がありました。

私たちはこのことをみて、労働組合の至上使命は首切りを守ることであるなら、東圧の問題も本質的には三鉱労組の合理化、首切りと同じだということ、また三鉱労組は全日本の労働者の防波堤として闘つているのだから、われわれも自からの闘いとして、ともに闘つているのです東圧にも三鉱の組合員は低能率で高賃金だという宣伝がされていましたが、昨年からの三鉱労組との交流座談会をつうじて、三鉱のだいたいの概念だけはつかんでいたので、東圧の合理化問題をとおして三池闘争の支援にたちあがつたのです。

示したホッパーの十万人大集会

出席者

平畑金一（三鉱宮浦支部）
上形富士子（三鉱主婦会）
石丸益枝（〃）
芝尾ミドリ（〃）
堀上茂（三染労組）
長島重義（〃）
鍛内須男（〃）
風斗長（〃）
貞方馨（東圧労組）
前田栄一（三煉労組）
藤枝義友（電化労組）
司会　福島大地評事務局次長

番犬だつた警察

司会　こんどの闘いは安保体制下の闘いとか、総資本との対決だとかいわれていますが、この闘争の中で直感的に感じられたこと、またはいろいろ経験されたことが多いと思いますが……。

石丸　三月三十七日に延命公園の体育館で第二組合はもちました。私たち主婦会では、そこへビラぐばりに行きましたが現に警察官がおつたにもかかわらず、私たちに暴力をくわえ、ケガまでさせた犯人を逮捕せずげくの果は横から入りこんできて足でけつたりふんだりの乱暴をはたらいたのです。

そうしていると第二組合員が百名ほど来ましたが、これをピケ隊が広場に追いはらいましたが〝灯をともす会〟の連中は、第二組合に応援じて私たちにレンガ、石などを目茶苦茶に投げる全くの暴力を働くのを、警官はただ傍観しているありさまです。

このとき警官は資本家の番犬だということを、ありありと感じましたね。

ホッパーを守つたこの力……

司会　そうでしようか。

かん声あげて殴りかかる

平畑　宮原社宅でこういう事件がありました。職場の係員に会いにいつたのですが、一人でより全部の方がよかろうと、全員が行つて面会を申入れました。

ところが家の中にはいるが出て来ません。三十分ほど待つたが出てこないので労働歌を歌い、団結示威ろうをやつて引上げようとするとき、見ていた警官たちが突然「突込め！」という号令で目茶苦茶に殴りかかつてきました。

附近にいた三染のアパートの人たちは最初「打て打て！打ち殺せ」という叫び声を、組合員がいつているのだろうと思つていたが、組合員はずつと離れた橋の所まで逃げてくる、警官はそこまでまだ追つかけて殴りかかる。それを見て三染の人たちもようやく警官のあまりの暴行ぶりにびつくりしておつたのです

私と市教組の遠矢先生の二人で相手の指導者に話合おうと申入れたんですが、逆上した警官はいきなり取り囲み、殴りかかろうとして「こいつらが責任者だ」といつて手錠まではめようとしました。

現場に行つてみると硝子窓が割られている。これは内側から割つたと直ぐ分つた。破片がみんな外にコボれているんです。ところが警官は、硝子は外から割つたのだ犯人も見たと言い張ります。そして犯人と責任者を逮捕するといきまいたが、割つたのを見たならどうして現行犯としてその場で逮捕しなかつたのかと追及すると、温和しくなつのです。

この二日後に野添で空屋のことで事件がおきたが、この時も警官は第二組合をうしろから加勢しているのです。

こうゆうふうで、このところいろんな事件がありましたが、警察は全く三井の番犬になりきつてしまつています。

子供も知つている

貞方　そういう警官を誰れが動かしているかを見極めなければなりませんね。みんな国家権力によつてやられているんですから

芝尾　阿真根さん（参議員＝三鉱労組政治局員）が怪我されたときも「代議士が何だ」「参議員が何だ」といつて殴りかかつています。これなども後に国家権力がついているからああいう暴言が吐けるのですね。

平畑　やはり制服を着た官製暴力団とはつきりいえますね。これは子供でも知つています。

子供が警官のところに遊びに行つたら警官が折詰めをくれたんです。そしたら子供が「犬が食うのは俺は食わん」といつたので、警官が非常に怒つて殺りかかろうとしたので泣いて帰つてきたことがあります。

確かに子供たちは知つています。警官が社宅内を巡らしているときも、コン棒を手にブラブラさせているのを見て暴力団といつていますが、腰にキチンと下げて廻つているときはお巡りさんといつています。そういうふうに見ているですね。

李承晩さながら

上形　闘争が決定的な段階を迎えたとき警官は向うにつくということをハツキリ見せつけられた主婦の逮捕のときも、完全にデツチ上げて逮捕したのです。

主婦が逮捕されると子供がおびえ、主婦会の団結を崩そうとたくらんでいる。これはハツキリと警察の態度をバクロしたものであると思います。

平畑　例えば勝立では黒田巡査が思想調査をやつています。戸籍調査といつて「安保問題をどう思いますか」「三池闘争はどう思いますか」とあちらこちらを廻つています。昔の特高警察のようであり、あまりひどすぎるこれを見ていかに安保とつながつているかが分ります。

それから七月二十二日に勝立で岡村巡査が発砲しています。全く李承晩さながらです。手錠をかけて組合員をパトカーにほうり込む、責任者が返して呉れといつても返さない。そして警官をぶつ放す、まつたく権力を笠にきた暴力団ですね。

前田　大体、イカクのため拳銃を打つたら上に行くのが本当ですが、水平に打つたので主婦に当つたのです。

貞方　私と知合いの警官と話してみたら、ああいうことをやるのは絶対間違いだと怒つていました。

警察署前で全学連に襲いかかる警官ども。

この態勢が十分できたから後で自信が出来たのです。内容に第二組合員をもつ人たち自身も非常に意気消沈していましたし、組合自身もどうして建直すかなやんだようです。

しかし、後ではピケに対する協力も積極的になつてきました。

長島　最初はピケ参加も四五―五〇％でしたが、最近では百五、六％になつています。

現場に行つても、ある現場ではピケから帰つた人がいろいろ話

闘う決意は崩れぬ

司会　三鉱労組の方から大地評傘下の組合員に対する決意なり挨拶をお願いしたいと思います。

平畑　私たちは先ほど申上げましたように、こんどの闘いは今のあつせん案が決して有利に出るとは考えていません。

労働基本権をふみにじるようなあつせん案であれば、あくまでも全労働者とともに闘いをすすめようとした会社は人命より生産の方が大事なのである。警察や裁判所はこの不法をよりしずめるどころか、会社を支援し、第二人工島などをバリケードで守つているこれはブルジョア民主主義にも反することになる。

はじめ組合は無装備で平和的なピケをはつていたのに第二組合や暴力団が襲いかかり、死者さえ出す